

## 令和4年度看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修 実施要項

### 1. 開催の趣旨と目的

世界中が大きな変化の波に飲み込まれる中、保健医療機関は、さまざまな対応を迫られました。これを機に、当センターでは、従来の集合型の研修形態を見直し、昨年度から、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルいたしました。ピア・コンサルテーションとは、利害関係のない研修参加者が、相互に刺激し支援し合いながら、自組織や自身の課題を俯瞰的に見つめなおすことを指します。

看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修は、解決したい組織課題を持ち、看護の目的（対象者が自ら力を発揮しながら望む場所で生き、生活することを支援する）を共有している看護管理者および中堅看護者を対象とし、すべてオンラインで行う、出力型の研修です。

研修では、看護管理者および中堅看護者がグループを形成し、相互に刺激し、支援し合いながら、自組織や看護者自身の課題を俯瞰的に見つめなおす機会を提供します。そして、看護の対象者や家族・スタッフ看護師・看護管理者・他職種・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態（ありたい姿・目標像）を思い描き、その目標に向かって課題を解決する方略を検討し、実行するプロセスを支援します。さらに、研修の成果とプロセスにおける看護者自身の発展を共有する機会を提供します。

なお、本研修は、当センターの中核事業である「“Society5.0看護”創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」事業の一環として開催するものであり、課題解決のプロセスの一部をデータとして蓄積し、社会に発信します。

研修形態は変更しましたが、当センターを利用してくださる皆様とともに、『実践・教育・研究の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、国民の健康の増進に資する』という当センターの活動テーマは一貫して変わりません。この時代の変革期に、全国の仲間とともに、自組織や自身の課題解決に自律的に取り組む意思のある看護管理者および中堅看護者の方々のご参加をお待ちしております。

### 2. 主催・実施

看護学教育研究共同利用拠点

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター

### 3. 研修期間

受講決定より令和4年度末まで。希望により年度単位での更新可能。

《研修スケジュール》

・令和4年5月10日（火）：受講決定

・令和4年6月7日（火）：オリエンテーション、第1回グループミーティング

※受講生の人数により、2日間で開催する可能性あり。その場合の追加日は6月9日（木）

- ・令和4年7月～令和5年1月：第2回～第4回グループミーティング
  - ・令和5年2月14（火）：成果報告会
- ※受講生の人数により、2日間で開催する可能性あり。その場合の追加日は2月16日（木）

#### 4. 研修内容（詳細は、別紙1参照）

- ・研修期間中に4回の研修参加者同士のZOOMによるオンライン・グループミーティングを行い、2月に成果報告会を開催します。
- ・グループは、上級看護管理者（組織の看護部門の長やその補佐を担う者）、看護管理者（部署の看護管理を担う者）、中堅看護者（臨地実習指導者、委員会メンバー、その他スタッフレベルの看護者）に分けて形成します。
- ・グループミーティングの日程は、勤務の都合等を勘案し、グループごとにメンバーの都合に合わせて決定します。ただし、「初回オリエンテーション・第1回グループミーティング」「成果報告会」は下記の日程で行います。こちらには必ず参加いただけますようお願いいたします。

##### 《初回オリエンテーション・第1回グループミーティング》

開催日：令和4年6月7日（火）

- ・オリエンテーション（全グループ共通）9：15～9：30
  - ・第1回グループミーティング（グループにより開始時間が異なる）9：30～17：00の間の2時間程度
- ※受講生の人数により、2日間で開催する可能性があります。その場合の追加日は6月9日（木）となります。

##### 《成果報告会》

開催日：令和5年2月14（火）

※受講生の人数により、2日間で開催する可能性があります。その場合の追加日は2月16日（木）となります。

- ・グループミーティングでは、当センター教員および当センターが委嘱した支援教員がファシリテーターとなり、グループメンバーが相互に刺激し、支援し合いながら、自組織や看護者自身の課題を俯瞰的に見つめなおす機会を提供します。そして、看護の対象者や家族・スタッフ看護師・看護管理者・他職種・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態（ありたい姿・目標像）を思い描き、その目標に向かって課題を解決する方略を検討し、実行するプロセスを支援します。さらに、研修の成果とプロセスにおける看護者自身の発展を共有する機会を提供します。
- ・研修期間中は、当センター教員および当センターが委嘱した支援教員によるメール、電話等による個別相談が受けられます。
- ・当センターがこれまでに開発したワークシートやモデルが利用できます。また、他のグループの成果発表の概要は、受講者限定で閲覧可能とします。

#### 5. 受講対象者

解決したい組織課題を持ち、看護の目的（対象者が自ら力を発揮しながら望む場所で生き、生活する

ことを支援する)を共有している看護管理者および中堅看護師。以下の3つのグループに分けて、それぞれ受講者を募集します。

- ① 上級看護管理者グループ (病院、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の組織の看護部門の長やその補佐を担う者)
- ② 看護管理者グループ (病院、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の組織の特定部署や業務の看護管理を担う者)
- ③ 中堅看護師グループ (病院、訪問看護ステーション、保健所・保健センター等の施設に所属する概ね経験年数5年以上の中堅看護師。臨地実習指導者、委員会メンバー等の組織における役割を有していることが望ましい)

それぞれ、所属施設の看護部門の長の推薦を受けた者とし、職位は問いません。原則として、同一施設から、各グループにつき1名の参加とします。(同一施設から、複数のグループに各1名ずつ参加されることは可能です。) ZOOMによるオンライン・グループミーティングに参加できる方に限ります。

## 6. 受講定員

各グループ10名(全体で30名)。定員を超えるご応募があった場合は、取り組みたいと考えている課題の明確さ及び緊急性、組織全体・社会への波及効果、課題解決に向けた準備状況等を総合的に勘案し、採否を決定させていただきます。

## 7. 応募方法 web 申込みとなります

- (1) 本センターホームページ (<https://www.n.chiba-u.jp/center/>) の看護管理者および中堅看護師向け課題解決型研修申し込みフォームより **令和4年4月15日(金)17時まで**にお申込みください。
- (2) お申込みには、併せて「応募者調査票(別紙2)」のご提出が必要となりますので、当センターホームページよりダウンロードの上、必要事項を漏れなく記入してください。  
応募者調査票の送付につきましては、PDF添付にて「指定パスワード」を設定してください。  
※指定パスワードは、申し込みフォームに記載されています。

## 8. 決定通知

受講者の採否については、**令和4年5月10日(火)まで**に、応募者本人にメールにて通知させていただきます。

## 9. 研修システム利用料(受講料)

1名につき、80,000円(消費税を含む。)

受講料及び本研修の受講にあたり必要となる設備費等は、派遣施設もしくは受講者の負担とします。

## 10. 修了証書

研修修了者には、千葉大学大学院看護学研究院より修了証書を授与します。

## 1 1. 注意事項

- (1) 申込み受付後の受講料の返金はいたしません。
- (2) 大規模な地震・風水害・降雪・事件・事故・疫病等により、研修の開催が困難であると主催者が判断した場合、全てあるいは一部のプログラムを中止することがあります。この場合、受講料の返金はいたしません。

## 1 2. 個人情報の取り扱い

申込みに際し提出された「応募者調査票」等に記載の個人情報については、看護管理者および中堅看護者向け課題解決型研修業務及びセンター年報への名簿掲載のために利用し、それ以外の目的に利用することはございません。「“Society5.0 看護” 創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」事業の一環として蓄積する、課題解決のプロセスのデータとさせていただく場合は、別途、提供許諾を依頼いたします。

## 1 3. お問い合わせ先

- (1) 本研修内容に関する問い合わせ先

千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター長 和住淑子  
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1  
T E L : 043-226-2471  
F A X : 043-226-2471  
e-mail : wazumi@faculty.chiba-u.jp

- (2) 上記1) 以外の事務的な問い合わせ先

千葉大学亥鼻地区事務部総務課総務第三係（センター研修担当）  
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻 1-8-1  
T E L : 043-226-2464  
F A X : 043-226-2382  
e-mail : kango-cqi@chiba-u.jp

【以下のような課題を抱えている看護者にお勧めします（課題と課題解決の方略の例）】

抱えている課題の例	課題解決の方略の例
〔上級看護管理者の例〕 病院内での内服薬の服薬事故が相次ぎ、対応策の立案を迫られた。看護師の服薬管理を徹底するため、配薬カートの整備を行いたいが、どのようにそれを推進すればよいか。	病院内の服薬事故事例を改めて分析したところ、その多くは、退院後も自宅で内服を継続する高齢者であったことが判明した。配薬カートの整備ではなく、病棟薬剤師と連携して、入院時に使用する服薬アセスメントシートを作成し、入院中から退院後にも患者自身が内服管理を安全に実施できる継続した支援の仕組みづくりを行った。

<p>〔中堅看護者の例〕</p> <p>回復期リハビリテーション病棟で看護学生の実習を受け入れているが、学生が立案してくる行動計画と患者のリハビリテーションを中心とした生活スケジュールが合致せず、有意義な実習体験ができずに困っている。</p>	<p>これまで、担当教員との話し合いは看護師長のみが行っていたが、実習指導を担当する看護師と担当教員との話し合いの場を作ってもらった。看護師と看護教員が患者の1週間の入院生活のスケジュールを共有し、学校側の実習目標を実現するための最適な学生の行動計画のアイデアを出し合い、雛型を作成した。</p>
---	--